

第 25 回情報フォトンクス研究グループ研究会（秋合宿）開催案内

主担当 最田裕介（和歌山大学）

副担当 鈴木裕之（群馬大学）

熊谷幸汰（宇都宮大学）

情報フォトンクス研究グループ研究会（秋合宿）は、本研究グループの中核的な事業の一つとして、教員・研究者・学生が寝食を共にしながら交流を深め、通常の学術講演会では得がたい濃密な体験ができる場として、毎年開催されてきました。今年で第 25 回目を迎える本研究会は、和歌山・加太の地にて、2泊3日のプログラムをご用意いたしました。参加者の皆さまにとって、「学び」「考え」「楽しむ」充実した時間となるような企画を準備しております。ぜひ奮ってご参加くださいますよう、お願いいたします。

日程：2025年9月12日（金）－14日（日）

開催場所：和歌山市立青少年国際交流センター（和歌山県和歌山市加太 1907-2）

参加費：一般：23,000円，学生：18,000円（1泊2日参加：16,000円，日帰り参加：8,000円）

[参加申し込みフォーム](#)より参加登録をお願いいたします ※申込締切：7月31日（木）

プログラム

[1 日目]

15:00－15:10 会場集合・チェックイン
15:10－15:20 開会の挨拶・諸連絡
15:20－15:40 ポスター準備・休憩
15:40－17:40 学生ポスター発表（奇数・偶数1時間ずつ）
17:40－18:00 ポスター撤収・休憩
18:00－19:00 夕食
19:00－22:00 グループワーク・自由時間（18:00－21:00に入浴）
22:00 消灯

[2 日目]

7:00－8:00 朝食
8:00－9:00 休憩・移動
9:00－12:00 友ヶ島散策（グループワーク）
12:00－14:00 移動・昼食
14:00－16:40 招待講演
14:00－14:50 招待講演 1 野村孝徳（和歌山大学）
14:50－15:40 招待講演 2 池田貴裕（パイフォトンクス株式会社）
15:40－15:50 休憩
15:50－16:40 招待講演 3 後藤優太（神戸大学）
16:40－19:00 懇親会（カレー作り）
19:00－22:00 グループワーク・自由時間（18:00－21:00に入浴）
22:00 消灯

[3 日目]

7:00－8:00 朝食
8:00－8:45 休憩
8:45－11:15 招待講演
8:45－9:35 招待講演 4 塩見日隆（高知大学）
9:35－10:25 招待講演 5 巳鼻孝朋（東京大学）
10:25－10:35 休憩
10:35－11:25 招待講演 6 林 雅也（和歌山大学）
11:25－11:30 休憩
11:30－12:30 昼食
12:30－13:00 休憩・部屋の片づけ
13:00－14:00 グループワーク発表
14:00－14:20 休憩
14:20－14:35 表彰式
14:35－14:40 2026年度秋合宿のアナウンス
14:40－14:50 閉会の挨拶
16:00－ 希望者に野村・最田研究室見学



自然豊かな風景とレンガ造りの廃墟が点在する島、友ヶ島。紀淡海峡に浮かぶ4つの小さな島、地ノ島、虎島、神島、沖ノ島を合わせて「友ヶ島」と呼びます。

沖ノ島には、かつての砲台跡がそのままの姿で残されており、探検心をくすぐるハイキングコースが人気です。山頂近くの第一砲台跡は見晴らしが良く、眺めの良い景観が広がります。近くに立つ白い洋風の灯台は島のシンボル。ゆったりとした時間を過ごせる静かな場所です。第二砲台跡は終戦後に爆破され、その後台風などの浸食によって壁が崩れた景観から迫力と歴史的なロマンを感じることができます。第三砲台跡は廃墟の風景が広がる場所。ここでは砲台跡内部へ入ることもできます。自然と一体化し、苔が広がる遺跡の風景は撮影スポットとしても人気があります。

加太港からわずか20分の船旅で訪れることができる友ヶ島は、まるで別世界に迷い込んだような気分を味わえるスポットです。

和歌山市立青少年国際交流センターは、瀬戸内海国立公園の東に位置し、紀淡海峡から太平洋を望む丘陵地にあります。そのため、渡り鳥や渡り蝶の観察もできます。

また、雑木の森が広がっているため、暖かい地方で生息する生き物をはじめ、たくさんの種類の鳥や昆虫、植物に触れることができます。



弊所がある加太の町は、奈良・京都に都があった頃より『南海道』として多くの役人等の往来があり、万葉歌人にも詠まれています。現在にも続く修験者の修行の場でもあり、古刹・名跡も多く伝統ある祭りは現在まで傳承されています。加太の町を散策すると、タイムスリップしたような感覚を楽しむことができます。

弊所敷地は、江戸時代末から昭和時代の太平洋戦争終わりまで、外国船の侵入に備えて大砲が据えられた陸軍基地でした。その跡地として、火薬庫や弾薬庫、台座跡や観測所跡など、今でも見ることができます。戦争の悲惨さや平和の大切さを学ばせかけとなります。

アニメブームも相まって『聖地』として、加太の町や友ヶ島に遠路お越しいただくこともあります。ゲームやバーチャル映像に触れることが多い昨今、弊所では、自然豊かな森の中の活動を楽しむことができます。また、弊所を拠点に、海水浴や磯遊び、波止釣りや船釣り体験など、魅力あふれた体験も可能です。

南海電鉄加太駅から徒歩30分、生涯学習の一環としてぜひご利用ください。

「和歌山市観光協会 公式ホームページ」

「和歌山市立青少年国際交流センター 2025年度利用の手引き」より引用